

研究概要の公開原稿

糖尿病、血糖値と進行膵癌化学療法の有効性、安全性に関する単施設後方視的検討

1. 研究の対象

本研究の対象となるのは、細胞や組織の検査で膵癌と診断されており、診断時より手術のできない膵がんに対して、2008年1月から2015年12月までの間に国立がん研究センター中央病院、東病院にて最初の治療として化学療法を施行された患者さんです。

2. 研究目的・方法

日本で膵がんはがんの発生数では第7位、死亡数で肺がん、大腸がん、胃がんについて第4位となっています。進行し根治手術ができない膵がんや再発した膵がんに対しては抗がん剤による治療が行われますが、完治させることは困難です。このため症状緩和やより長く生きるようにすることが治療の目標となっています。また、糖尿病はがん患者さんでもよく見られる病気です。糖尿病や高血糖ががんの発生や進行、副作用に関連しているという研究が報告されています。しかし、糖尿病に罹っている期間と膵がんの予後に関する日本人での調査や、臨床（実際の患者さん）での血糖と化学療法の効果の関連に関する調査、また、膵がんでの血糖と副作用の関連の調査はこれまで行われていません。本研究では糖尿病のない患者さん、糖尿病に短期間罹っている患者さん、糖尿病に長期間かかっている患者さんでの化学療法の効果や副作用、また化学療法中の血糖と化学療法の効果や副作用の関係を調べることで、糖尿病に罹っている期間と膵がんの予後の関係や糖尿病を持つ膵がんの患者さんでの化学療法中血糖の調整をどの程度厳密に行うかの判断に役立てようと考えています。対象患者さんに対して、診療録の情報を用いて3.の項目を調査します。

（例）研究実施期間：3年間

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：性別、膵がんの広がりに関する情報、糖尿病に関する情報、化学療法に関する情報等

4. 試料・情報の公表

研究が終了した時点で、研究全体の検討を行い、速やかに学会発表および論文発表を行います。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター中央病院 内科レジデント/肝胆膵内科 飯泉 桜/奥坂 拓志

国立研究開発法人

国立がん研究センター中央病院

〒104-0045

東京都中央区築地 5-1-1

電話:03-3542-2511

国立研究開発法人

国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 池田公史

国立研究開発法人

国立がん研究センター東病院

〒277-8577

千葉県柏市柏の葉 6-5-1

電話:04-7133-1111

研究責任者： 国立がん研究センター中央病院 総合内科・歯科・がん救急科 大橋 健